

議事要旨

日 時：平成 28 年 7 月 25 日（月）10:00～11:30

会 場：まちなか交流センター おやま〜る 研修室

出席者：22 名出席、3 名欠席

1. 今年度の検討の進め方

永井委員：今年の検討は、高岳引込線の有効活用が基本になる。まちづくりの余地やアプローチがあることがわかるような計画の構成にしたい。

永井委員：引込線が残っている事例は少なく、小山市の特徴の一つである。高岳引込線のようなストックは希少であり、インフラとして使っていくことは市の PR につながる。そういう視点を考慮して計画をまとめていってほしい。

2. まちづくり部会、新交通システム部会の開催結果

◇ 了承された。

3. アンケート調査の実施方針

（沿線住民等の調査票について）

A 委員：解答欄の網掛け部は下線にした方がよい。また、記入例は「出井」ではなく「中久喜」にしてほしい。高岳引込線は凡例と図を合せたい。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

B 委員：路線の有効利用なのか新しい路線の整備なのか、スタンスを明確にさせた方がよい。また、運行本数の選択肢は 1 時間に 1～3 本は少ない気がする。4 本などの多い本数をのせてはどうか。まちづくりを考慮すると 1 本や 3 本で足りないのではないか。今後は、企業努力や CSR の一貫としてノーマイカーデー導入等の利用促進も必要。

C 委員：運行時間は JR 宇都宮線小山駅の始発から終電としてはどうか。運行本数も 3 本以上の選択肢がほしい。乗りたい車両の選択肢は「どちらでもよい」を入れた方がよい。

D 委員：運行本数を増やすには複線にする必要があり、高岳引込線の有効活用ではなくなる。まずは有効活用を基本として市民のコンセンサスを得ていきたい。富山市の LRT は既存の線路を利用した成功事例であるが、高岳引込線におきかえるのは無理があると感じた。

豊川：昨年度検討したまちづくりの前提がないと質問が唐突になる。参考として示した副委員長 方がよい。多くの方に成果を見ていただきたい。

事務局：検討したい。

永井委員長：現在の交通需要はアンケートで定量的に把握することになり、新たなまちづくりに伴う交通需要は事例を用いて整理することになる。

大森宣暁：最初のアンケートとしては現実的な需要を把握できるとよい。次にモビリティマネジメントなどによる需要の伸びを考慮していくことになる。

事務局：運行本数の示し方については、事務局あずかりにさせてほしい。運行時間はJR宇都宮線小山駅の始発から終電としたい。

E委員：まちづくりの課題は択一ではなく複数選択にしてはどうか。必要に応じ選択肢の数を増やすなどすれば、沿線の課題がより浮かび上がってくる。

事務局：選択肢を工夫する。

（アンケートの調査対象について）

F委員：未来を担う小中学生にもアンケート調査をしてはどうか。

豊川：夏休み明けになるかもしれないが調査を検討したい。中学生は来年から高校生になり、通学利用するお客さんになる。若い人の協力が得られれば、まちが盛り上がる。

D委員：除外自治体にも調査してほしい。

事務局：調査を検討する。

（企業アンケートについて）

G委員：企業には公共交通の分担率を聞いてはどうか。

大森宣暁：総務に質問しても回答できないかもしれない。
副委員長

永井委員長：確かな数値として使えるかどうか、事務局と交通部会長と議論して決めてほしい。

以上